

私の寺に奉仕していた沢久老人が、断水のとくに「お困りでしょうから井戸を掘ってあげましょう」と始めたが、六間掘っても七間掘っても水が出ない。

「もうやめなさい、素人が生き埋めになったと言ったら困るではないか」

「開発させていただいたお礼に掘らしていただくのですから、寺内にそのまま土葬していただいたら、永久にお寺を護りますよ」と掘っていたが、岩盤で二進も三進もいけない。「やめなさい」と叱るように言ったら、

「私が煩悶しているとき、和上さんがいわれたではありませんか。」

井を掘りて 今一尺で 出る水を

掘らずに出ずという人ぞ憂き

もう一尺で水が出るのに、ここは水の線がないのだと投げたら、六間も七間も掘ったのが無駄になる。信仰も、難中の難にぶち当たって、自分はどう宿善がないのだと求道を放棄したら、永久に助からないのではありませんか。出るまでやらしてください。大千世界に満てらん火を過ぎ行きました求道よりはやすいのですから、私の思いを遂げさせてください」

とカッチンカッチンやっていたが、岩盤の間から滾々と湧き出た清水、どんな断水のときでも涸れることがない。植木に水をかけるときには、いつも沢久さんが生きていますと感謝しています。